

新社. 67 pp.  
 那覇自然環境事務所, 2010. 奄美・琉球諸島の生物多様性. 島々に棲む様々な生きものたち. 那覇自然環境事務所. 7 pp.  
 Nakane, T., 1982. New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXXV. Reports of the Faculty of Science, Kagoshima University (Earth Science & Biology), (15): 101-111.  
 大嶋和雄, 1980. 海峡地形に記された海水準変動の記録. 第四紀研究, 19: 23-37.  
 Ota, H., 1998. Geographic patterns of endemism and speciation in amphibians and reptiles of the Ryukyu Archipelago, Japan, with special reference to their paleogeographical implications. Researches on Population Ecology, 40: 189-204.

Perreau, M., 2015. Family Leiodidae. p. 180-291. In: Löbl, I. & D. Löbl (eds.). Catalogue of Palaearctic Coleoptera. Hydrophiloidea-Staphylinoidea. Revised and updated edition. vol. 2/1. 900 pp. Brill, Leiden, Boston.

(2017年6月12日受領, 2017年6月17日受理)

### 【短報】奄美大島のカエルが食べた甲虫類

奄美大島は、南西諸島あるいは奄美群島の主要なカエル類の生息地となっており、カエル類の多様性も非常に高い。筆者の一人亘は2003年から2006年にかけて、奄美大島において、大型のカエル類3種、オットンガエル *Babina subaspera*、アマミシカワガエル *Odorrana splendida*、アマミハナサキガエル *Odorrana amamiensis* の生息状況と食性の調査を行った。この中でオットンガエルの食性については、サワガニ、マダラカマドウマ、オオゲジ、ミミズ、ナメクジ、マイマイなどが主な餌であることを報告している(岩井・亘, 2006; 岩井ら, 2006; 亘ら, 2007)。しかし、その他の内容物が1/3以上あり、これについては触れられていない。亘は胃の内容物から、形が分かる甲虫類を抜き出し、横原がそれを同定した。本報告ではその甲虫類の同定結果を報告する。ただ、調査地域は奄美大島全域にわたり、保全上の観点から、ここでは採集地は特定しない。カエルの採集者はすべて亘である。

#### ●オットンガエル

奄美大島、加計呂麻島と枝手久島だけに分布する。  
 コガネムシ科 Family Scarabaeidae  
 アマミビロウドコガネ *Maladera amamiana* Nomura (図3)  
 1 ex., 18. X. 2005.  
 コメツキムシ科 Family Elateridae  
 タカハシクシコメツキ *Melanotus (Melanotus) takahashii* Kishii (図7)  
 2 exs., 12. VI. 2006.  
 ゴミムシダマシ科 Family Tenebrionidae  
 アマミオオニジゴミムシダマシ *Hemicera nodokai* Nakane (図8)  
 1 ex., 13. X. 2005.  
 オオシマナガキマワリ *Strongylium oshimanum* Fairmaire (図9)  
 1 ex., 14. VI. 2006.

#### ●アマミシカワガエル

奄美大島だけに分布する。  
 オサムシ科 Family Carabidae  
 ハラアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes japonicus* (Motschusky) (図1)  
 1 ex., 15. VI. 2006.  
 コメツキムシ科 Family Elateridae  
 ミヤケオオサビキコリ *Agrypnus (Agrypnus) miyakei miyakei* Ôhira (図5)  
 1 ex., 12. VI. 2006.  
 アマミアラハダチャイロコメツキ *Reitterelater amamiensis* (Ôhira) (図6)  
 1 ex., 24. V. 2004.  
 タカハシクシコメツキ *Melanotus takahashii* Kishii (図7)  
 1 ex., 12. VI. 2006.  
 カミキリムシ科 Family Cerambycidae  
 リュウキュウクリイロシラホシカミキリ *Nanohammus oshimanus* Breuning et Ohbayashi (図11)  
 1 ex., 23. V. 2006.

#### ●アマミハナサキガエル

奄美大島と徳之島だけに分布する。  
 オサムシ科 Family Carabidae  
 アマミモリヒラタゴミムシ *Colpodes amamioshimensis* (Habu) (図2)  
 1 ex., 30. I. 2006.  
 コガネムシ科 Family Scarabaeidae  
 フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata* Lewis (図4)  
 1 ex., 26. V. 2006.  
 カミキリムシ科 Family Cerambycidae  
 オオシマハネナシサビカミキリ *Pterolophia (Pseudale) oshimana* Breuning (図10)  
 1 ex., 26. V. 2006.  
 ゾウムシ科 Family Curcurinidae  
 ヒメクチカクシゾウムシ *Catarrhinus umbrosum*



図1-12. カエルの胃の内容物に含まれていた甲虫類. 1, ハラアカモリヒラタゴミムシ; 2, アマミモリヒラタゴミムシ; 3, アマミヒロウドコガネ; 4, フタスジカンショコガネ; 5, ミヤケオオサビキコリ; 6, アマミアラハダチャイロコメツキ; 7, タカハシクシコメツキ; 8, アマミオオニジゴミムシダマシ; 9, オオシマナガキマワリ; 10, オオシマハネナシサビカミキリ; 11, リュウキュウクリイロシラホシカミキリ; 12, ヒメクチカクシゾウムシ.

Roelofs (図12)  
1 ex., 30. I. 2006.

同定できた甲虫は5科12種類で、想定されたことではあるが、何れも夜行性の種であった。興味深いのは嫌な臭いを出すオサムシ科やゴミムシダマシ科甲虫が捕食されていたことである。

#### 引用文献

- 岩井紀子・亘 悠哉, 2006. 奄美大島におけるイシカワガエル, オットンガエルの生息状況. 爬虫両棲類学会誌, 200(2): 109-114.
- 岩井紀子・亘 悠哉・戸田光彦・阿部慎太郎・加賀谷 隆, 2006. 奄美大島固有種オットンガエルの保全生態学的研究. プロ・ナトゥーラ・ファンド第15期助成成果報告書(2006), pp. 51-59.
- 亘 悠哉・岩井紀子・大海昌平・加賀谷 隆, 2007. 奄美大

島固有種オットンガエルの保全生態学的研究(継続). プロ・ナトゥーラ・ファンド第16期助成成果報告書(2007), pp. 17-24.

(横原 寛 298-0002 いすみ市日在 2033-5)  
(亘 悠哉 305-8687 つくば市松の里1  
森林総合研究所鳥獣研究室)